

「京の畜産応援隊」による酪農家への経営改善支援の一事例

中丹家畜保健衛生所

○岩田幸義 戸川博行¹⁾

【はじめに】京都府では関係機関で組織する「京の畜産応援隊」により農家ごとの課題に応じた伴走支援を実施しており、その一事例を報告。【支援農家の概要と課題】搾乳牛約 30 頭を飼養する酪農家で、労働力は畜主のみ。分娩期や乳量に応じた飼料給与メニューが定まっておらず、適正給与が不明確。給餌作業に時間を要していたため、発情観察が不十分。卵胞嚢腫などの繁殖障害も多く、初回授精が遅れる傾向。【取組概要】当所は、毎月行う繁殖巡回時の検診と聞き取りによって農家の課題を抽出。関係機関と連携して、労力軽減と牛の栄養状態の安定化を目的に完全混合飼料（TMR）の導入を進め、牛群検定成績等を活用した給与調整を実施。【結果】継続支援により給与メニューが安定すると、月平均繁殖障害牛は 3.25 頭（前年 5.25 頭）、卵胞嚢腫は 1.0 頭（前年 3.0 頭）に減少し、受胎率が向上するとともに乳量が増加。【考察と今後】TMR 導入による牛群の栄養状態の安定と、労力軽減による観察時間の増加が、繁殖障害の低減に寄与と推察。定期巡回での実態把握と「京の畜産応援隊」による一体的支援により、実態に即した対応が可能となり、経営が改善。今後も関係機関と連携しながら、個々の農家に応じた支援を継続。

1) 現 淀高原牧場